

令和 3 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ハリ タシ
氏 名 羽成隆司

研究期間 令和 3 年度

研究課題名 若年女性の身体意識に関連する心理特性の分析

研究組織

| | 氏 名 | 学 部 | 職 位 |
|-------|------|--------|-----|
| 研究代表者 | 羽成隆司 | 文化情報学部 | 教授 |
| 研究分担者 | | | |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

これまで報告者は、若年女性の自身の身体への意識とそれに関連する心理特性についての研究を継続的に行ってきた。本研究でも、他者と比較しての自身の身体魅力の程度、心身の主観的健康度、ファッション行動の特徴について分析を行う。今回は新たな視点として、着装することによる魅力上昇の認知について検討することを目的とする。また、若年女性の細かい年齢差による特徴についても考慮し、とくに大学 1 年生 (18-19 歳) 女性に限定した分析を行う。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

本学の学生 (1 年生) を対象とし、以下の質問紙調査を行う。質問項目は、1) 裸体時、および、よそいき用の装い時それぞれにおける、自身の身体各部位への評価 (“同年代の女性 100 人中で何位くらいだと思うか” について数値で回答)、2) GHQ28 (健康度を測定する尺度) および既存の尺度を使用した心身の健康状態の程度、3) 減量のためのダイエット経験、年齢、身長、体重。4) 衣服、化粧品それぞれの購入に支出する 1 ヶ月あたりのおよその金額、である。データ収集は Google フォームを使用して実施する。主たる結果を文化情報学部紀要で報告する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究は、18歳と19歳の大学1年生女性のみを対象とし、着装による自己評価の順位上昇値を指標に用いた分析を行った。これまでの研究と同じく、身体各部位による違い、主観的健康度、ダイエット経験との関連についても確認した。全15部位の順位上昇値について行った因子分析では、4因子が抽出された。すなわち、一般に女性にとっては小さい・細いことが望ましいとされ、「太さや大きさ」が強く意識される部位(腹、脚、ウエスト、足、尻)、「スタイル」を表す部位(全身・上半身・下半身のプロポーション)、「上肢」(腕、肩幅、手)、その表面に意識が向けられ、「化粧・手入れ」が施される部位(毛髪、顔、肌)である。これらのうち、各因子に含まれる部位の順位上昇値の平均が最大であったのは、化粧・手入れ部位(毛髪、顔、肌)であった。化粧(=メイク・アップ)による加工・変容の効果は、衣服による変容より強く自覚されていると言えよう。一方、太さや大きさ関連部位(腹、脚、ウエスト、足、尻)や上肢(腕、肩幅、手)などの個別の部位は、衣服による評価の上昇が小さいと意識されていると思われる。また、これまでの調査で裸体時も着装時も評価が低いことが確認されている、腹、脚、ウエスト、足、尻は、ただ他の部位と比べて評価が低いというだけでなく、着装による加工・変容が施しにくい部位であると意識されているのかもしれない。なお、因子分析では「胸」が他の部位と同じ因子に含まれず、本研究でも「胸」が他の部位とは異なる独自の位置づけがなされている可能性が示唆された。順位上昇値と、主観的健康度、ダイエット経験、被服や化粧品購入額との関連は見られなかった。羽成・宮崎(2020)、羽成(2021a, b)では、とくに主観的健康度と身体部位への自己評価との間にいくつかの関連が見られたが、被服や化粧による自己評価の上昇には、主観的健康度の影響は見出せなかった。身体部位への自己評価と、被服や化粧による自己評価の上昇は、いずれも身体意識に関わるものとは言え、異なる側面を反映していると推測される。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

| | | | |
|--------|---------|-----------|---|
| ① 身体意識 | ② 順位上昇値 | ③ 大学1年生女性 | ④ |
| ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

○論文

羽成隆司 着装によって身体の自己評価はどのように変化するのか? : 大学1年生女性を対象として 椋山女学園大学文化情報学部紀要第21巻(2021), 65-73.

○学会発表

羽成隆司 20歳、21歳女性における裸体時と着装時の自己の身体に対する評価 日本家政学会第73回大会(オンライン開催、2021年5月30日)